

民間金融機関との協調融資 令和元年度上期 61 件、86 億円

1. 協調融資の実績

沖縄振興開発金融公庫（理事長：川上好久、以下「当公庫」という。）は、民業補完を旨とし、民間金融機関との協調融資を行いながら、多様な資金ニーズにきめ細かく対応しています。

当公庫は、平成 30 年度から事業資金（一部を除く）の融資実績の協調状況をシステム登録しており、令和元年度上期の協調融資実績は、61 件、8,630 百万円となりました。

（注）協調融資：同一目的の資金計画に対し、民間金融機関と当公庫が協議等を経たうえで、両者が融資を決定したもの（両者の融資決定時期が異なる場合も含む）。

事業資金：産業開発資金、中小企業資金、生業資金（一部を除く）、生活衛生資金（一部を除く）、医療資金、農林漁業資金、住宅資金。

2. 民業補完の取り組み

当公庫は、平成 16 年 3 月に琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行、コザ信用金庫（以下「四行庫」という。）と「業務連携・協力に関する覚書」を締結するなど、日頃から協調、連携し、県内事業者の支援などを行っています。

また、平成 29 年度から新たな取り組みとして、意見交換会（内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局共催）の開催や連絡窓口を開設するなど、一層の協調、連携に努めています。

（注）意見交換会：四行庫と当公庫の部長級が一堂に会し各種意見・情報交換を行う。年一回程度開催。

連絡窓口：四行庫の各機関が沖縄公庫と相対（課長級対応）で設置。個別案件に関する各種調整等を随時実施。

3. 分野別 協調融資の実績（平成 31 年 4 月～令和元年 9 月）

（単位：件、百万円）

	件数	金額
小規模事業者	27	1,083
中小企業	19	2,804
農林漁業	6	1,308
大規模プロジェクト	5	3,009
その他	4	426
合計	61	8,630

お問い合わせ先



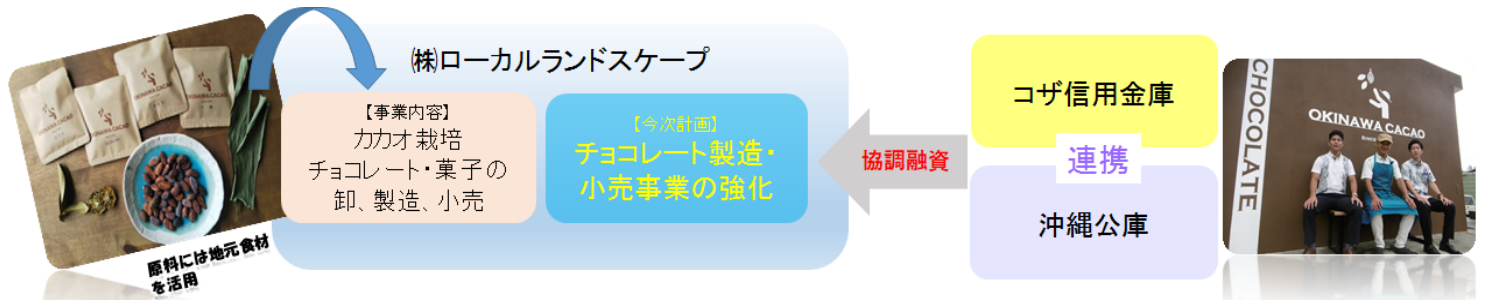
沖縄振興開発金融公庫
THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION

業務統括部業務企画課（担当：高良）TEL 098 (941) 1740

4. 民間金融機関との連携 事例①【創業、地方創生】

本島北部圏域で新規事業の展開を図る事業者を協調融資商品で支援

㈱ローカルランドスケープは、カカオの栽培からチョコレートを生産・販売を一貫して行うことを目的に、平成28年に大宜味村で創業しました。カカオの最初の収穫には3~4年を要するため、創業当初はチョコレートの卸売を手掛け、以後、チョコレート・菓子の製造(カカオ等原料は仕入により確保)、小売事業へと展開しています。原料にはカカオに加え、カラキ(沖縄シナモン)やシークワサー、月桃、泡盛等の地元食材を使用しており、食材の風味を生かしたチョコレートは地元客や観光客に人気があります。当公庫とコザ信用金庫は、協調融資商品を活用して創業段階にある同社の事業展開を支援しました。当社は今後、念願であるカカオの収穫とこれを原料としたチョコレートの製造・販売を目指し、一層の事業展開を図っていきます。当公庫とコザ信用金庫は、今後とも協調、連携して当社の事業展開を支援していきます。



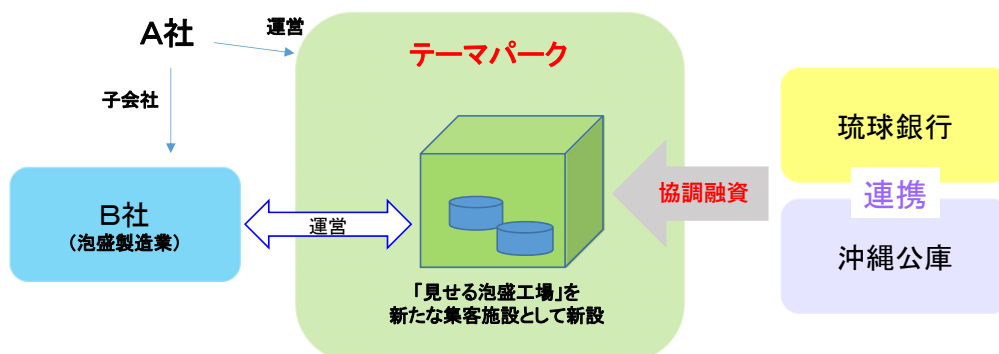
(協調融資商品の概要)

商品名	コザしん・おきなわ公庫協調ローン「ベスト・パートナー」
資金使途	創業・新規開業、事業承継、その他地域経済活性化に必要な設備資金及び運転資金
融資限度額	2,000万円以内(コザ信用金庫と沖縄公庫との融資合計額)

4. 民間金融機関との連携 事例②【地方創生】

本島北部圏域の観光リゾート産業と泡盛製造業の振興に寄与する泡盛工場の新設を協調支援

恩納村でテーマパークを運営するA社は、同施設内に新たな集客施設として泡盛工場を新設しました。同泡盛工場は、A社の子会社で泡盛製造業のB社に賃貸し、泡盛の製造過程が見学できる「見せる泡盛工場」として運営、展開されます。沖縄公庫は、琉球銀行と連携して同計画を支援、協調融資を実行しました。これにより、同テーマパークの一層の集客力向上や北部圏域の観光リゾート産業を中心とした地域振興、地場産業である泡盛製造業の振興が期待されます。



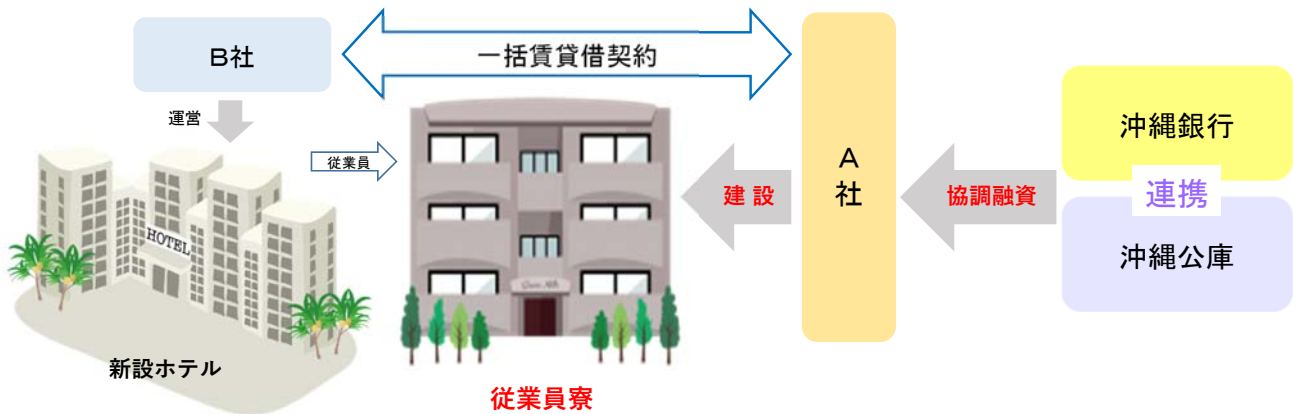
4. 民間金融機関との連携 事例③【地方創生】



本島北部圏域の観光リゾート産業の振興に資するホテル従事員寮の建設を協調支援

A社は、本島北部圏域で新設されるホテルの従事員寮を建設し、同ホテルの運営会社であるB社に一括賃貸しました。深刻な人手不足の事業環境において、本従事員寮建設は、同ホテルで働く人材の確保や地域の活性化に貢献することが期待されます。

沖縄公庫は沖縄銀行と連携して、同計画を支援し、協調融資を実行しました。



4. 民間金融機関との連携 事例④【生産性向上】

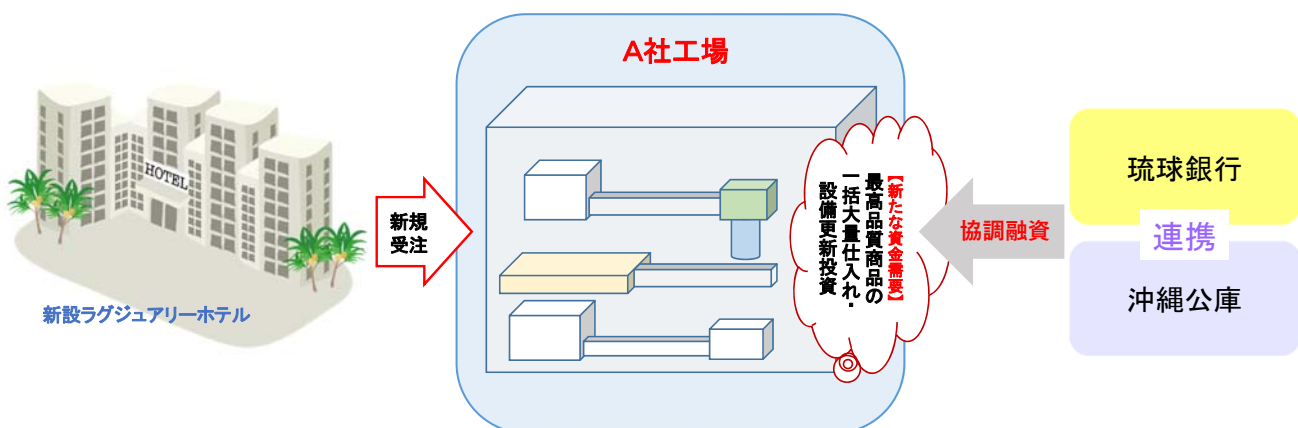


新設ホテルからの新規受注に対応するために必要な資金に対し協調融資を実行

A社は、新設のラグジュアリーホテルから最高品質の新規受注を得ました。

当該新規受注は、売上・コストともに単価上昇が見込まれ、長期運転資金と設備資金の新たな資金需要も生じました。沖縄公庫と琉球銀行はA社の増産対応や設備整備を支援するため、協調して融資を実行しました。

また、A社は従来から地域の障害者雇用にも積極的に取り組んでいます。本件により、A社の増産と生産性向上が図られるとともに、ディーセント・ワークの提供など引き続き地域社会への貢献も期待されます。



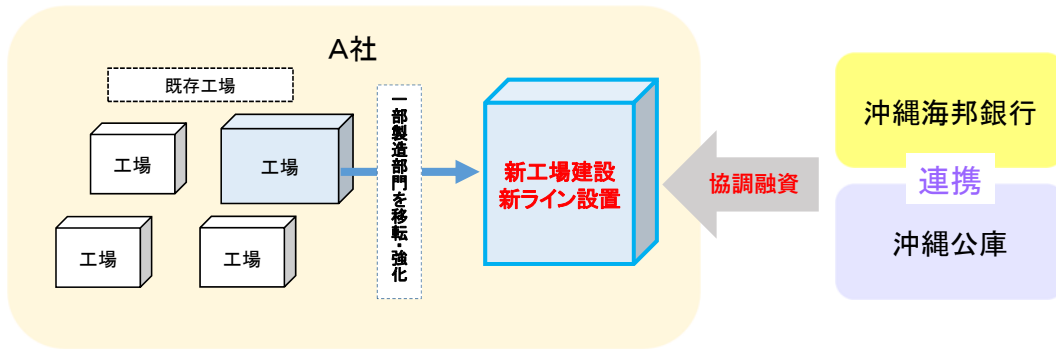
4. 民間金融機関との連携 事例⑤【生産性向上】



狭隘化した食品製造工場 の能力増強投資を協調支援

A社は、狭隘化した食品製造工場の一部機能を強化するため、新工場を建設し新たな製造ラインを設置するとともに、新製品開発スペースの充実を図りました。

本設備投資により、A社の製造能力の増強と生産性の向上が図られるなど、収益力強化が期待されます。沖縄公庫は沖縄海邦銀行と連携して、同計画を支援し、協調融資を実行しました。



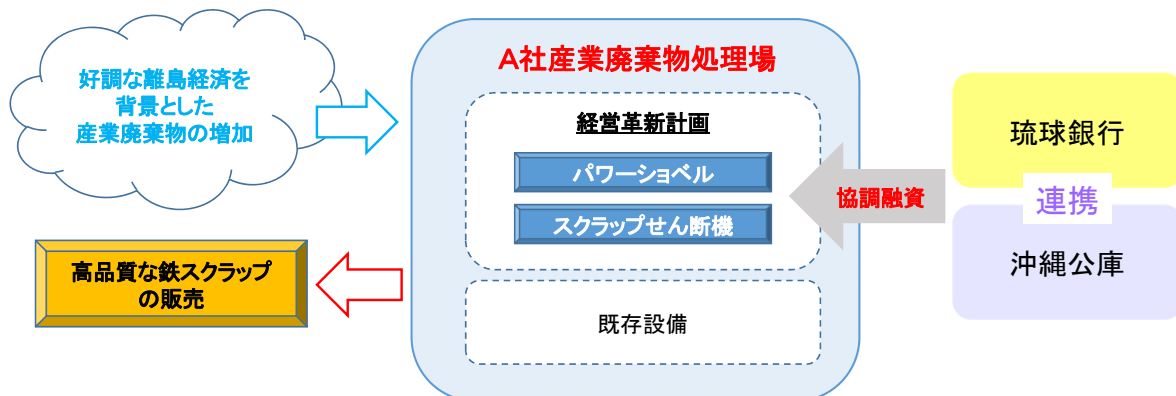
4. 民間金融機関との連携 事例⑥【生産性向上】



離島圏域における経営革新計画の実行を協調融資で支援

離島圏域で産業廃棄物処理業を営むA社は、過酷で効率の悪い労働環境の改善を行い、生産性、安全性、品質の向上を図るため、設備の能力増強投資を実行しました。当該設備投資に係る計画は、沖縄県から「経営革新計画」の承認を得たものです。

沖縄公庫と琉球銀行は、A社の経営革新計画実行を支援するため、協調融資を実行しました。離島における適正な産業廃棄物処理は、持続可能な地域社会の発展にとっても重要な機能です。当該設備投資により、生産性の向上と高品質の鉄スクラップ販売が可能となるなど、A社の事業基盤強化が期待されます。



4. 民間金融機関との連携 事例⑦【経営支援】



経営支援先であるホテル事業者に対し協調して金融支援を実行

沖縄公庫と琉球銀行は、経営支援先であるホテル事業者の設備更新投資に必要な資金と既往借入金に対する金融支援を協調して実行しました。

同ホテル事業者はかつて経営難の状況にありましたが、金融支援を盛り込んだ事業再生計画を策定・実行し、順調に事業を展開してきました。今次設備更新投資と資金繰りの円滑化により、同事業者のさらなる事業基盤の強化が期待されます。

